

会員サービス!! 量から質へ ～記帳指導と同時に経営指導～

恩納村商工会記帳専任職員の平良多鶴子さんは会員企業が「今の売上でもしっかり儲かる仕組み」を創り上げるため、「ネットde記帳」による自計化を積極的に進めている。

今回紹介する有限会社 恩納アルミ工業は、その中で最も成果を上げている会員企業だ。

ネットde記帳の導入

有限会社 恩納アルミ工業さんは、3年前まで市販の会計ソフトを使用していたが、決算時にデータ保存にトラブルが発生し、大変苦労した。この経験を踏まえ、商工会の平良さんに相談したところ、データ保存に全く心配のないASP方式の「ネットde記帳」の紹介を受け、導入に踏み切った。

そんな中、昨年6月新社長に就任した島袋利也さんは「黒字なのに銀行にお金がない? 本当に儲かっている?」という疑問から、経営者として会社の現状を正確に認識して、自社の問題点を発掘し、どこに手を打てば利益が出るか、将来に向かってしっかり手を打ちたいと、商工会の平良さんが提案していた管理会計的手法を取り入れることを決定、8月から毎月2回の勉強会でSWOT分析、BSCに基づく中期経営計画を策定し、10年後の無借金経営をめざしはじめた。

初の会社方針発表会開催

全社員が同じ方向を向いていないと感じていた社長は、「事業計画方針発表会」を平成21年8月28日に創業以来、初めて行った。その席上「経済の成長期であれば、会社の売上アップが利益アップ・資金繰り改善に結びついた。しかし、ほとんど成長が望めない状況においては、いかに少ない売上でも 確実に利益をあげ、安定した資金繰りが確保できる経営体質を築き上げるかが重要だ。モノが売れない時代でも、儲かっている会社には必ず「儲かる仕組み」が存在すると商工会から教えられた。私は営業として今まで売上至上主義でやってきたが、社長として会社を見ると売上ではなく、確実に利益をあげる大切さがよくわかった。私は健康な会社を創り上げ、皆さんの生活をより豊かにしたい」と宣言した。

ネットde記帳の導入効果

そして、毎月第一土曜日に「ネットde記帳」の資料を基に進捗管理会議を開いた。「ネットde記帳」から出る資料は、社員全体の意識改革にもかなり影響を与えている。以前はどれだけムダが発生したのか分からなかったが、数値で確認できるようになり、業務の改善や新たな利益確保に向けて社員間で積極的に意見が出るようになってきた。また、住宅着工数が減少し、一戸から少しでも利益を多く獲得することが重要と考えていた社長は、メーカーから顧客情報が一番早いのはアルミ屋だ!!にヒントを得、今まで販売をひかえていた商品も「とにかくお客様をショールームご案内すればよい」そうすれば利益獲得チャンスも広がると気づき、メーカーとの業務提携を実現、システムキッチン、バスルーム商品、洗面化粧台、トイレまわり商品、内装用建材、収納商品、床・階段・手すり、調湿建材等を積極的に販売展開を始めた。

経理の瀬良垣さんは「ネットde記帳」と、以前使用していた市販ソフトの違いについて、「データは安全確実に管理され個別バックアップの必要がない。バージョンアップ時も何も心配ない。顔を知っている商工会職員が使い方も私が出来るまで、困った時や、わからない点も解るまで、すぐに対応してもらえ安心できる。使ってみて初めて「ネットde記帳」はすごいと思ったと語った。

さらに「ネットde記帳」のデータを活用した管理会計を行って

みて、「私が今まで求めてきたのはこれだ!!これで、私の頭を最も悩ませてきた資金繰りも今後は毎月支払いに追われなくて済みそうだ」と安堵感を見せた。「社長、副社長が今までの売上至上主義から利益の大切さがわかり、儲かることに意識が変わったことがなにより嬉しく、また、毎月のキャッシュフローを確認することで、如何にお金を残すかに役員が積極的に関り、会社の財務内容の改善も急速にすすんでいる」と経営者陣にとって頼もしい言葉が返ってきた。

島袋社長も「管理会計を導入したことによって、社員が数字に関心を持ち、スキルアップにつながっている。社員一人ひとりが徹底してムダをなくすためネジ1本大切にしたり、総務部門の社員が新商品の営業のため設計事務所を訪問して、すでに今期の販売目標を達成するなど、社員が一丸となってひとつの方向を向くようになった。銀行やメーカーにも会社の状況を毎月報告し、信頼関係がより一層深まった。「ネットde記帳」は健康な会社をつくる上での土台だ。どのように行動すれば数字を改善することができるのか、売上が伸びないとき、どのようにして利益を確保していくか、変動費・固定費の削減方法など、いろいろな経営管理手法を商工会に教えてもらい、やるべきことがはっきり見え、具体的な行動がしやすくなった。私にとって商工会はかけがえのないパートナーだ」と商工会に対する信頼を述べた。今期は昨年度の15倍の経常利益をめざし順調に推移しているそうだ。

会社では方針に全社員「忙しい」という言葉を禁句にしている。

未来を切り拓くために

木村剛氏は『「会計戦略」の発想法』で経営の羅針盤として、「会計を活用し、それを戦略として昇華する企業だけが、存続への切符を手にする時代がやって来つつある」と述べている。「会計という計器なしでは自社を操縦することはできない。会計という計器を使いこなせるかどうか企業が経営の将来を決める。それができる経営と、できない経営では確実に差が出てくる」と管理会計の重要性も述べている。

平良さんも巡回指導をしていて会員企業が、従来の税務申告のための会計から、経営に役立つ会計へと質的变化を求めていることを現場で感じていたが、今回恩納アルミ工業をサポートしていく中で、「世の中ますます変化が激しくなり、会員企業がその変化を直視しなければ乗り越えることはできない今だからこそ、商工会は「ネットde記帳」という羅針盤をもとに、経営戦略の基盤づくりからサポートすることの大切さに気づいた。この気持ちで自計化を積極的に進めている。

「ネットde記帳」の活用で「商工会も継続的、具体的にしっかり会員企業の経営をサポートすることができるようになる。」と締めくくった。

社 名：有限会社 恩納アルミ工業（日本工業規格認証工場）
業種目：アルミサッシ加工販売、システムキッチン、バスルーム商品、洗面化粧台
トイレまわり商品、内装用建材、収納商品、床・階段・手すり、調湿建材
所在地：〒904-0412 沖縄県国頭郡恩納村字谷茶1305番地
TEL：098-966-2202
創 業：平成2年7月1日 資本金：1000万円
社 長：島袋 利也 社員数：9名